

# 喜・舞・音

## 第0回喜和堂朗読会

—— ジョルジュ・バタイユ『文学と悪』(山本功訳、筑摩書房、1992年) ——

野村喜和夫「渦巻カフェあるいはA・Rの正しい狂気」(『渦巻カフェあるいは地獄の1時間』思潮社、2013年)

限界や必然性から逸脱している還元不可能な部分、至高の部分が、自分のなかにあるということもまた存在は知らなければならぬ。

誰と誰だ  
たわむれ動く影がみえ  
名の複数が香る。

薄青く  
きみの皮膚の冬がめくれているよ  
私はそこに書く  
きれぎれに  
無造作に  
沈黙の布地を  
(仮縫い)するよう  
それでもきみの皮膚の冬が  
めくれているよ  
そのなかに  
誰だ  
誰と誰だ

YouTuberに代表されるように、全ての表現は回線を通すことで巧拙問わず広告となりうる現在において、前衛的であることはどんな意味を持つのでしょうか。

詩と舞踏と音楽は人の生活と密接に始まりましたが、現在は素材または教養として緩やかに繋がりがつつ、表現自体は分かたれたままほとんどが完結しています。

詩人 野村喜和夫は舞踏との親和性を著作で記しており、理事を務めるエルスール財団では新人賞を通し「詩」と「ダンス」の未来を担うアーティストを応援しています。

私たちは詩と舞踏と音楽の最前線の出会いを継続的に作ることでふたたび総合的な芸術について問い直したいと思っています。

ご来場をお待ちしております。

実行委員一同

朗読 | 野村喜和夫、森川雅美、渡辺めぐみ、はんな、芦田みのり、山口勲、川津望

演奏 | 加納伊都、KOYU(コウユウ)

舞踏 | 武智博美

インスタレーション/照明/演出 | 月読彦

企画 | 川津望 企画協力 | 山口勲

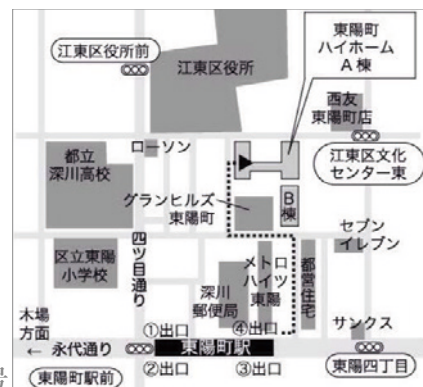
監修 | 喜和堂

日程 | 3月24日(土) 入場料 | 2,000円

開場:18時30分 開演:19時

定員 | 30名 当日は混雑が予想されます。QRコード(<https://goo.gl/pHkVTb>)またはお電話で予約ください。  
tel: 080-5901-8632(川津)

場所 | アートスペース.kiten 東京都江東区東陽4-7-10東陽町ハイホーム A棟121号



## -Profile-

**野村喜和夫** | 1951年埼玉県生まれ。早稲田大学第一文学部日本文学科卒。戦後世代を代表する詩人のひとりとして、現代詩の先端を走りつづけるとともに、小説・批評・翻訳なども手がける。詩集に『川菱え』『反復彷徨』『特性のない陽のもとに』(歴程新鋭賞)『風の配分』(高見順賞)『ニューインスピレーション』(現代詩花椿賞)『スペクタクル』『スードな日』(藤村記念歴程賞)『現代詩文庫・野村喜和夫詩集』、評論に『現代詩作マニュアル』『萩原朔太郎』(鮎川信夫賞)『証言と抒情——石原吉郎と私たち』など。また、英訳選詩集『Spectacle & Pigsty』で2012 Best Translated Book Award in Poetry (USA) を受賞。近著に詩集『デジャヴュ街道』、評論『哲学の骨、詩の肉』。

喜和堂とは、野村喜和夫を中心とした詩人の集いである。2010年3月より活動を開始し、現在は隔月に詩の合評や吟行をおこない、各々の活動をフィードバックしている。その成果の一部は詩誌「喜和堂」として発行。同誌ではメンバーによる連詩・自由詩・エッセーを掲載している。構成メンバーは流動的に変化し続け、現在はほかに佐峰存(詩集『対岸へと』思潮社)などが在籍している。『現代詩手帖』2018年2月号の「詩誌月評」にて、その活動が紹介された。

**森川雅美** | 詩人、歴史ライター。詩集に『くるぶしのふかい湖』『山越』(ともに思潮社)など。「詩歌梁山泊〜三詩型交流企画」代表として、週更新の詩歌梁山泊 WEB ページ「詩客」(<http://shiika.sakura.ne.jp/>)と年1回の「詩歌トライアスロン」を主宰。「歴史時代作家クラブ」「脱原発社会をめざす文学者の会」幹事。「喜和堂」事務担当。即興朗読も行なう。

**渡辺めぐみ** | 詩人。日本現代詩人会理事、世田谷文学賞詩部門選考委員、「詩歌梁山泊」詩部門実行委員。日本文藝家協会、日本ペンクラブ他会員。第11回「詩と思想」新人賞受賞。詩集に『光の果て』(萩原朔太郎生誕120年記念・前橋文学館賞)、『内在地』(第21回日本詩人クラブ新人賞)、『ルオーのキリストの涙まで』(第11回日本詩歌句随筆評論大賞詩部門大賞)(三冊ともに思潮社)他1冊。「喜和堂」に発足時から参加。「ウルトラ」「イリプスIInd」「喜和堂」「ドミタス」「交野が原」「詩の練習」「エウメニデスIII」同人または寄稿メンバー。

**はんな** | 詩人・キリスト教関連の通訳・翻訳。『フルライフ・スタディ・バイブル注解書』(ライフパブリッシャーズ、共訳)、訳書『レボリューション』(ジョージ・バーナ著、地引網出版社)、詩集『あ、』(土曜美術社出版販売)、個人詩誌 Priceless。詩と思想に作品定期掲載。2012年より「喜和堂」に参加。

**芦田みのり** | 詩人、書を書く人。即興詩を詠む人。「喜和堂」同人。2008年よりかとうゆかと朗読会「おも茶箱」を主催。五行歌誌「彩」同人。趣味は登山といろいろな街を歩くこと。

**山口勲** | 詩人・翻訳家。朗読会「千葉詩亭」を詩人・大島健夫氏と共催。国立コミュニティリーディングをコミュニティスペース・国立本店と共催。日本各地でオープンマイク(飛び入り参加歓迎)の朗読会を開催。詩誌「て、わたし」の発行を通じ、日本と世界の詩人の紹介を行っている。「喜和堂」には2010年より所属。twitter @makotoidadsuka

**川津望** | 詩と音楽。2015年より喜和堂参加。2018年1月、アトリエ第Q藝術にて「アート・クロッシング・ライブ 2018.1.28 池田一天水プロジェクト・イン・東京」に朗読/即興によるボイスパフォーマンスで参加。作曲では加納伊都氏にヴァイオリンのための曲「自動筆記」を提供、2017年10月横浜シャノールでフランス文学者/批評家の宇野邦一氏をゲストに迎えたイベント「音・色・言葉…すでに予感」で初演された。

**加納伊都** | ヴァイオリニスト。ウィーン国立音楽大学演奏科にて研鑽をつみ、主席で卒業。2003年ウィーン、日本において初ソロリサイタル開催、新聞にて絶賛される。以後ウィーン、ドイツ、イギリス、日本を始めヨーロッパ各地で演奏活動を行い、ウィーン国立音楽大学より表彰される。また毎年12月みなとみらいホールにて行われるリサイタル(2017年12月22日第15回開催)は横浜市より称賛を得、特集を組まれた。様々な分野から注目、高評を集めている。CDも発売中。<http://www.itokanoh.com/>

**KOYU(コウユウ)** | エレクトリックベース奏者。東北大学文学部哲学科&バークリー音楽大学修了。ボストンやシカゴでのジャズやブルースの演奏活動(1992-1998)後、東京での活動を開始。器・生け花・音のユニット「うつらわ・ば」、エレクトロフォーク「うるるといえ」、ミクストメディア「東京獣舎」やアフリカ音楽などの分野で活動中。『ソウル・マイニング(ダニエル・ラノワ自伝)』(みすず書房) 翻訳。

**武智博美** | ジャズダンス、コンテンポラリーダンスから舞踏へ。某舞踏カンパニーでの活動を経て、フリーで活動中。ソロでの作品創作や、ミュージシャンとの即興セッション、他振付家作品への出演など。平行して、ノイズ・ダンスのユニット maguna-tech を共同主宰。

**月読彦** | アートスペース .kiten あるじ。奇天烈月光団、浮世モード主宰。罪/つくよみとしてダンスソロ。インスタレーション等舞台美術も手掛ける。最近は演劇活動も再開しつつある。